

ジャクソンホール会議、FRB議長は引き締め姿勢を維持

ポイント① FRB議長、引き締め姿勢を維持

24-26日に主要国中央銀行の関係者や経済学者による金融・経済シンポジウム「ジャクソンホール会議」が開催されました。FRB（米連邦準備制度理事会）のパウエル議長は25日に講演し最近のインフレ鈍化については良好だという認識を示したものの、「インフレは依然として高すぎる」とし、データ次第では追加利上げを行なう可能性を残しました。

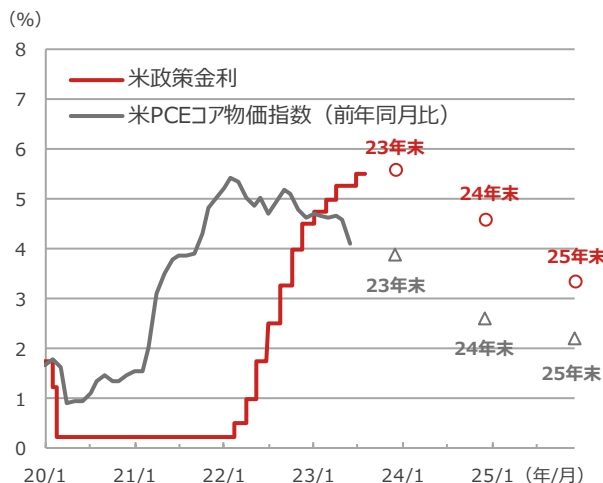
ポイント② 中立金利上昇は示唆せず

22年3月以降に急激な利上げが行なわれ、政策金利が中立金利に相当するロングラン金利を大きく上回っており、一般的には景気にブレーキをかける水準となっています。インフレは鈍化傾向にあるものの、労働市場は堅調を維持し、米景気は底堅くなっており、ジャクソンホール会議を前に、市場では従来想定より中立金利が上昇している可能性が懸念されていました。しかし、パウエル議長は講演にて中立金利上昇を示唆することはなく、当面はFRBの目標であるインフレ2%に向けて、インフレ再加速懸念の払しょくに専念するようです。

ポイント③ 高金利政策は長期化か

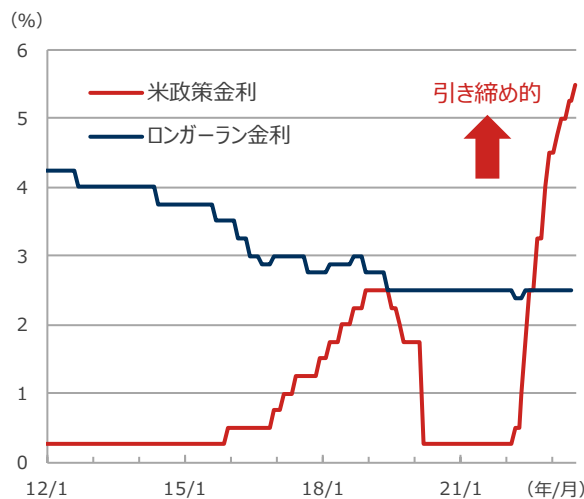
25日の米10年国債利回りは前日比でほぼ横ばい、円相場は1米ドル=146円台半ばの年初来安値圏となりました。今後発表される経済指標がインフレ再加速の警戒を強めるものでなければ、9月のFOMC（米連邦公開市場委員会）では利上げが見送られる公算です。同日公表されるFOMC参加者の金利見通しにて高金利政策の長期化が明確となるか、また、長期の政策金利見通しが引き上げられた場合は、利下げ局面において利下げ幅が縮小される可能性があり、米景気への影響が懸念されます。

米国の政策金利と米PCE（個人消費支出）コア物価指数



期間：（米政策金利）2020年1月31日～2023年8月25日、日次
（米PCEコア物価指数）2020年1月～2023年6月、月次
米政策金利はFF（フェデラル・ファンド）金利目標上限値
○、△印は2023年6月のFOMCで示された見通し、○印はFF金利の目標レンジ中央値、△印は10-12月期の米PCEコア物価指数の前年同期比
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米国の政策金利とロングラン金利



期間：（米政策金利）2012年1月末～2023年7月末、月次
（ロングラン金利）2012年1月～2023年6月、月次
米政策金利はFF金利目標上限値
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 8月31日 米PCEコア物価指数（7月）
イベント 9月1日 米雇用統計（8月）